

因島の技術で故郷豊かに トロムソのイキー・ウォルター氏

Portrait

2024/7/3 5:00 | 日本経済新聞 電子版



トロムソ設計・技術担当のイキー・ウォルターさん

広島県尾道市の因島にあるトロムソの本社。もみ殻から燃料炭を製造する機械の前で、ウガンダ出身のイキー・ウォルターさんは細かな技術の特徴を流ちょうな日本語で説明してくれた。設計・技術担当の主戦力として活躍する、「自分の作った機械で途上国の生活を改善できればうれしい」と語る。

トロムソは因島の主要産業である造船技術をベースに事業分野を広げている。燃料炭の製造装置を開発するほか、トウモロコシなどから出る農業残渣（ざんさ）を原料にしたバイオ炭で農地の土壌改良にも取り組む。

イキーさんはこうした事業で設計部門を担当する。入社は2023年4月だが、早くも同社にとってなくてはならない人材になりつつある。

試行錯誤の毎日で苦勞も少なくない。モーターに必要な力を導き出す計算など難問に取り組み、設計開始から一つの機械を完成させるのには6カ月程度かかる。ベテランなら3カ月強といい、「もっと技術を磨いてスピードを上げたい」と意欲を見せる。

イキーさんはウガンダ北部の貧しい農村地帯で生まれた。子供のころは木を切って炭を作り、頭に載せて道ばたで売っていた。畑を任されてトウモロコシなどもつくったが高くは売れず、生活は大変だった。

厳しい生活の中でも勉学に励み、高校では優秀な成績を修めて日本の奨学金を受けるチャンスを得た。面接に合格して日本語を必死に勉強、高根の花だと思っていた留学をつかみ取った。



イキーさんは流ちょうな日本語で機械の使い方を説明してくれた

ウガンダでは日本は日本車のイメージが強いという。物作りが好きだったイキーさんは、日本で自動車など機械の生産に携わりたいと考えた。19年に東海大学工学部の機械工学科に入学し、機械の設計を学んだ。

学びを進めるうち、得た技術を母国の発展に役立てたいという思いが強くなった。自動車関係の企業に企業訪問もしたが、迷いもあった。そんな就職活動のなか、環境対策や農業改革に力を入れるトロムソの事業報告書を見つけた。

トロムソの技術を生かせば、アフリカなどでエネルギー源としての炭の確保や農業の生産性向上を実現できる。そう考えインターンを直談判した。当時はインターン募集はなかったが、上杉正章社長はイキーさんの強い意志に受け入れを決め、その後採用に至った。

現在国内にいる9人の従業員のうち外国人は4人で、国籍はウガンダ、ルワンダ、ナイジェリア、ベトナムと多様だ。大学や大学院で高い専門性を身につけた人材ばかりで、世界市場を開拓する主戦力になっている。

イキーさんは今後、アフリカで販売した機械の使い方を教える研修を予定している。因島で学んだ技術で故郷を豊かにしたい。夢の実現へ一歩ずつ歩みを進めている。

(宮沢徹)

地域ニュース

全国各地の最新記事やおすすめコラムはこちら

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

Nikkei Inc. No reproduction without permission.